

4：達成率80%以上  
3：達成率60%以上  
2：達成率40%以上  
1：達成率20%以上

A：評価は適切である  
B：評価に一部改善が必要である  
C：全体的に改善が必要である

学校教育目標		「自ら考え、ねばり強くやりぬく生徒」 「きまりを守り、思いやりのある生徒」 「心身ともに健康な生徒」「伝統を尊重し、郷土を愛する生徒」					
目指す学校像（ビジョン）		・生徒及び教職員一人一人が大切にされ、温かい雰囲気の中、誰一人取り残さない学校 ・「知」「徳」「体」の調和のとれた生きる基盤を地域と共に培う学校 【目指す学校像】 ・自ら考え、心身ともに健康で、きまりを守り、思いやりのある生徒 ・よりよい社会の形成のために伝統を尊重し、郷土を愛する生徒 【目指す児童・生徒像】 ・教育公務員としての自覚と誇りをもち、ライフワークバランスを保ち、学び続け協力し合う教師 ・組織の一員としてカリキュラムマネジメントを意識しながら学校運営に積極的に参画する教師					
中期経営目標		短期経営目標	具体的方策	指標 教員	指標 生徒	成果と課題	学校関係者評価欄 総合評価 ご意見
学 び に 向 か う 力	主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を図り、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力、人間性を養う。	生徒が学習意欲をもって自主的に取り組む姿勢を養う。	生徒の興味を引き出し、対話的な学びを通して、実生活に生かせる知識や技能を身に付けられるような授業を展開する。	4	4	教員のアンケートでは、生徒の興味や意欲を引き出せるように工夫できたとすべての教員が肯定的に回答している。生徒の回答においても肯定的な回答が90%近くとなっている。一方、生徒の否定的な回答が10%を超えている。生徒の興味関心をさらに引き出し、自主的に授業に取り組めるような授業展開をしていく必要がある。	A 今後も丁寧な取り組みに期待する。様々な生徒に対応できるよう、校内での研修を充実させるなど、指導する教員の授業力の向上を目指し、生徒が興味関心をもてるような工夫を取り入れていけるとよい。
		生徒が学習の目標・課題を意識し、見通しをもち、主体的に学習を進める姿勢を養う。	単元のねらいを明確に設定し、その解決に向けた授業が実施されるよう教職員の研修を充実するとともに授業改善を図る。	4	4	教員のアンケートでは、90%以上が肯定的な回答であった。生徒の回答においても肯定的な回答が80%を超えているが、否定的な回答が10%を超えている。生徒が本時のねらいを理解した上で授業に臨めるよう、毎時間のねらいを明示し、そのねらいに向けた授業展開を行っていきけるよう教員の授業力向上を図っていくことが課題である。	A 「目標」や「ねらい」を意識して授業を受けることで、その時間の学習内容の定着につなげることができると思う。生徒がその「目標」や「ねらい」を授業の最後にももう一度振り返り、達成できたかどうかを自分で図ることができるような工夫を取り入れていけるとよい。
		学習課題に向けて、「個別最適な学習」を実現し、個々の資質能力の効果的な育成を図る。	単元計画において、個々の学習ニーズに応じた学習を行えるよう、工夫を取り入れた授業計画を図る。	4	4	教員の回答は、肯定的なものが90%を超えているが、自信をもって「そう思う」と回答した数は20%未満であった。教員が自信をもって授業を行うとともに、生徒が教科に合った学習方法を習得できるような具体的な学習方法の提示を授業内で行っていく必要がある。	A 生徒一人一人の能力に合わせて指導することはとても大変だと思うが、部活指導などは地域の力を借りるなどして、教員が授業改善や生徒への指導に十分力を出せるよう環境を整えることも大切だと思う。
人 間 関 係 形 成 力	道徳の時間を中心に思いやりの心や規範意識等を向上させるとともに、変化の激しい社会の中で人生を主体的に生きる資質・能力を養う。	教育活動全体を通して、望ましい生活習慣を身に付け、正しい判断に基づき行動できるようにする。	良好な人間関係を育てるとともに、集団の一員として、挨拶・授業規律等を生徒主体の集団活動の中で身に付けられるように支援する。	4	4	教員・生徒共に肯定的な回答が90%を超えており、多くの生徒がきまりを意識して生活することができている。校内のきまりについては、生徒の意見に耳を傾けながら、さらなる見直しを図っていききたい。授業規律については教員の対応力の向上を目指し、研修を行い共通理解を図っていく必要がある。	A 生徒の声から学校のきまりの見直しを行っているのは、とても良いと思う。教員からの考えだけでなく、生徒の中から出てくる声を吸い上げてほしい。授業規律やきまりに対する教員の統一した指導ができるよう、研修を行っていけるとよい。
	いじめ防止対策推進条約法に基づき、いじめ防止対策の徹底と家庭・地域との連携のもと、いじめ問題克服に向けての取り組みを行う。	生徒に達成感・成就感を味わわせる指導を充実させ、生徒の自尊感情や自己肯定感を高める。	各行事において、生徒による実行委員会を組織させ、生徒一人一人に責任と協力的態度を育てる。	4	4	生徒の回答では、肯定的な回答が80%を超えていたが、一方で否定的な回答も10%程度見られている。学校全体の大きな行事はもちろんであるが、それだけでなく、日常の学級活動や委員会活動等においても、協力したり、責任をもって物事に取り組んだり、生徒主体で取り組める活動を工夫・改善していくことが必要だと考えられる。	A 大きな行事だけでなく、日々の生活の小さなことを大切にできるようにしていけるとよい。生徒が自主的に生徒同士で協力して行える取り組みを工夫してほしい。
		道徳の時間において、人としての生き方を考えさせ、実践できる力を育成し、自他の生命を尊重する態度を高める。	道徳推進教師を中心に、地域と連携して指導内容の充実を図る。人としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲、態度を育てる。	4	4	教員・生徒共に肯定的な回答が90%を超えていた。道徳の授業を通して、前向きに取り組んでいたことが現れている。授業の中で考えたことや他の価値観に触れることで、よりよい生活につなげて実践的態度へつなげ、学んだことが日常生活で生かしていけるよう、授業改善を図っていくとともに、授業以外の教育活動全般での道徳的指導も行っていく必要がある。	A 道徳の授業の中で考えたことや気づいたことを日常生活の中で生かせるようにすることが大切だと思う。日常生活の中でも道徳的な価値に触れる時間をもてるようにしていけるとよい。
		良好な関係を築き、いじめのない環境の中で、安心して学校生活が送れるようにする。	人権課題に関する学級での話し合い等を行い、人権教育の推進を図るとともに、自他の良さを認め合える生徒の育成を図る。	4	3	生徒のアンケート結果において、肯定的な回答が80%未満であり、否定的な回答が20%を超えていた。生徒が安心して学校生活を送れるよう、毎月のアンケートだけでなく、アンテナを高くし、情報収集と早期の対応を図っていく必要がある。また、違いを認め合えるような雰囲気づくりが、学級や学年で行えるよう工夫・改善が必要である。	A 生徒が安心して生活できるようにすることは大切だと思う。日頃の生徒の様子をしっかりみて対応してほしい。また、生徒自身が人との関わり方や感情のコントロールのしかたのスキルを身に付けていけるような取り組みが必要だと思う。
健 康 増 進 力	健康等に関する取り組みを充実させ、健康と体力づくり、健康保持増進につながる取り組みを充実させる。	健康で安全な生活を営む力を育成するなど、健康教育を充実させる。	体育の授業や保健委員会の啓発活動等を通して健康や体力向上に関心を持たせる。また、食育の推進により心身の健康の維持に関する指導を行う。	4	4	教員・生徒共に肯定的な回答が80%を超えていた。委員会活動においてもゲームを取り入れた活動で啓発を行ったり、昼の放送で食育に関する内容を放送したり生徒のアイデアによる工夫を取り入れる成果が現れている。さらに生徒が健康に興味を持ち、意識して生活が送れるよう、心身の安全・健康の保持増進に関する指導の充実を図る必要がある。	A 中学生のこの時期に、自分自身の体に関心をもつことは大事なことである。様々な形で生徒が健康について考える機会をもてるような工夫を取り入れてほしい。
		教育相談を充実させ、生徒理解を深め、生徒一人一人が安心して学校生活を送れるようにする。	各学期に相談週間を設定し、教育相談やガイダンスの機能の充実を図る。アンケートを行い、早期の対応を図る。	4	4	教員・生徒共に約90%が肯定的な回答であった。タブレットを活用したり、相談週間に定期的に設けたりして、いつでも相談できる体制を整えてきた結果が現れている。一方で、否定的な回答をした生徒も少数いる。日頃から全教員で生徒の様子を観察し、小さな変化を見逃さず、変化に気づいたときに素早く対応する体制を整える必要がある。	A 担任の教員だけでなく、話しやすい教員に話ができることや、話したいことを事前にアンケートをとっておくことなどは、日頃教員に相談することに抵抗を感じる生徒にとってよいやり方だと思う。
社 会 参 画 力	総合的な学習の時間などを通して、地域や社会に関心を持たせるとともに、人権や環境問題などの課題解決に向けて、自ら行動を起こすなど、地域社会の未来を考える力を養う。	横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく資質・能力を育成する。	各学年で地域と連携した学習を計画するとともに、探求課題を設定し、地域への愛着、地域社会へ参画する態度を育てる。	4	4	教員・生徒共に肯定的な回答であった。全学年において、「西東京ふるさと探究学習」を地域と連携した形で行うことができた。生徒が取り組んだ探究課題を校内にとどまらず、地域へも発信していくなど、地域の方々に理解を深めてもらえるような働きかけを行っていきけることが課題である。また、持続可能な形での連携のあり方も模索していく。	A 西東京ふるさと探究学習を、地域の方の協力を得て実施できたのはとてもよかったと思う。さらに地域へ発信できるような取り組みを取り入れていくことで、地域の一中に対する印象も変わってくると思う。
		道徳との関連を図り、地域社会に貢献する態度を育成する。	ボランティア精神の伴う活動等に参加することを通して、よりよい社会を築いていこうとする意欲、態度を育む。	3	3	教員・生徒ともに、肯定的な回答が最も少なかった項目である。集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度の育成に向けて、ボランティア活動の機会を充実させたり、体験者からのメッセージを伝えることで、ボランティアをより身近なものとして感じられるような工夫を取り入れていく必要がある。	A 生徒たちに「ご褒美をもらうためにボランティアをやる」という気持ちではなく、人のために動くことの大切さを本当の意味で理解して活動できる生徒の育成をしていけるとよい。
特 色 あ る 教 育 活 動	デジタル・シティズンシップ教育を通して、デジタル技術を効果的・積極的に活用し、一市民として共同し、社会参画できる生徒を育成する。	生徒一人一人の学習状況に応じたタブレット端末等を効果的に活用する。	タブレット端末を活用した授業改善やデジタルドリルの活用推進など、授業を通してタブレットを活用する場面を設定する。	4	4	教員・生徒ともに約90%が肯定的な回答をしている。昨年度のアンケートでの教員の回答と比較すると、約23ポイント上昇しており、各授業においてタブレットの活用が進んできていることが結果に表れている。さらにデジタルドリルの活用を推進し、家庭での学習につなげるなどさらなる工夫を行っていきけることが課題である。	A 教員のタブレット活用が進んでいることがわかった。さらに効果的な活用ができるよう授業改善をしていけるとよい。またデジタルドリルを授業の最後に使用するなどして、家庭学習へつなげられるとよいと思う。
		インターネットの便利さと健康のバランスを保ち、メディアを活用する能力を養う。	メディアバランスのとれた生活の大切さを意識させるとともに、デジタル機器をよりよく使って社会参画する態度を育成する。	4	4	教員・生徒ともに肯定的な回答が約90%であった。令和5年度から行ってきた研究「デジタル・シティズンシップ教育」での取り組みが浸透していることがわかる。校内でも委員会活動などにおいて、デジタル機器を活用した取り組みを工夫していき、デジタル機器のよりよい使い方の指導や社会参画する態度の育成を行っていく。	A 研究の成果もあり、メディアバランスを意識している生徒も多いことがわかった。今後もこの研究の成果を取り入れた教育活動を行っていけるとよいと思う。
働 業 務 方 改 善 革	勤務時間、健康管理やワークライフバランスを意識した働き方を推進する。	業務改善について教職員の意識改革を図る。	ワークライフバランスについて、自己申告に具体的な目標を示し、実現に取り組む。	3	3	自己申告においてワークライフバランスについての具体的な目標を掲げ、ある程度は意識は高まっているが、実際の在校時間は55時間を超える教員が多いことがわかる。個々の勤務時間を見える化して、タイムマネジメントの意識を高めるとともに、行事のあり方の見直しを行ったり、業務の引継ぎを行ったり、業務改善を行う必要がある。また、業務が一部の教員に偏っていることも考えられる。校内組織図の見直しを図り、偏りのない分担ができるようにしていく。	A 教員は本当にたくさんのお仕事をされているが、地域の力を借りられるところは借りて業務に集中して取り組めるとよい。しかし地域の力を借りるといっても予算的には限られると思うので、業務改善をするなどして工夫していくことも必要だと思う。
		勤務時間の管理を徹底する。	在校時間が週5 5時間を超えない。有給休暇10日以上取得する。	3	3		A